

# 第一・第二中学校区 適正化推進委員会たより No.2

令和2年11月 発行  
沼津市教育委員会事務局 教育企画課  
所在地：沼津市御幸町16-1  
TEL：055-934-4821  
E-mail：kyouiku-ki@city.numazu.lg.jp

日頃より本市の教育行政に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。沼津市教育委員会では、市内の児童生徒数の減少に伴い、学校規模・学校配置の適正化（学校の統廃合）に取り組んでいます。8月26日（水）に開催した第1回推進委員会では、第一中学校区と第二中学校区の児童生徒数の状況や今後の推移予想などから、今後の学校規模・学校配置の適正化の方向性について協議を行いました。その後、保護者や地域の皆様から多くの御意見をいただきました。



今回のたよりでは、10月27日（火）に開催した第2回推進委員会における協議内容や、今後の第一・第二中学校区の適正化に向けた取組等についてお知らせします。

## 令和2年度 第2回 第一・第二中学校区適正化推進委員会を開催しました

今回の会議では、第一・第二中学校区の子供たちにとって、学校規模・学校配置の適正化をどのように進めていくことが望ましいのかという視点で、第一小と千本小、そして、第一中と第二中の4校の施設について、資料をもとに、それぞれの施設を使用するメリットやデメリット、課題等について意見交換を行いました。



小学校については、第一小での統合を支持する意見が多く出され、推進委員会として、「小学校の統合については、第一小の施設を使用する方向で進めることが適当である」というまとめを行いました。一方、中学校については、第一中での統合を支持する意見がある一方、第二地区コミュニティから第二中での統合を望む旨の要望書が提出されたほか、先行して小学校3校の統合を行い、その後、施設一体型の小中一貫学校を建築して、数年遅れて中学校を併せ、小中一貫校化する案も提案されました。協議内容は以下のとおりです。

### 第一・第二中学校区における適正化の方向性について

第1回推進委員会では、第二中学校区内の3校ではなく、第一中学校区と第二中学校区の5校で適正化を進めていくことを確認し、6つの適正化案（3ページ【資料1】案③～案⑧）について御意見をいただきました。小中一貫校化案（案⑦・案⑧）は、統合年度が最短で令和7年度以降と遅くなってしまうことや、校舎増築のためにグラウンドが狭くなり、現実的ではないという御発言もあり、第2回推進委員会では、案③～案⑥に絞って協議を行いました。また、今回は、施設の状態を比較しやすくするために、小学校は第一小と千本小、中学校は第一中と第二中のそれぞれ2校を並べ、津波や洪水などの災害リスクや、校舎や体育館、グラウンド等の施設の状態が分かるように整理した資料（3ページ【資料2】）をもとに協議を行いました。

## 1 津波リスクについて

- ・ハザードマップでは、4校とも津波の浸水想定域には入っていない。
- ・想定を大きく越える津波に対しては、校舎屋上や4階などへの垂直避難を行えばよい。
- ・津波リスクについては、施設の検討の際、考慮しなくてもよい。

## 2 洪水リスクについて

### (1) 狩野川と黄瀬川の洪水リスクについて

- ・ハザードマップによると、第一小・第一中は洪水の浸水想定域ではない。
- ・千本小は、校舎への浸水は想定されていないものの、敷地北側の一部が浸水想定域となっており、第二中も、職員玄関付近やテニスコートが浸水想定域に掛かっている。

### (2) 新中川の洪水リスクについて

- ・ハザードマップによると、第一小は浸水想定域には入っていないが、第一中は敷地全体が浸水想定域に入っている。
- ・千本小は、校舎への浸水は想定されていないものの、敷地北側の一部が浸水想定域となっており、第二中も、職員玄関付近やテニスコートが浸水想定域に掛かっている。

### (3) 施設の検討について

- ・洪水の発生が予想される状況では、通常、学校は自宅待機や臨時休業となっており、子供たちが学校にいる可能性は低いいため、洪水リスクについては、施設の検討の際、考慮しなくてもよい。

## 3 教室数の過不足や校舎・体育館・グラウンド等の状況について

### [小学校3校を統合する施設について]

- ・千本小は教室が5室不足することから、第一小の方がよいのではないか。
- ・第一小は洪水リスクがなく、教室数の不足もない。校舎は築年数的には古いですが、適切な改修がされているということであるので、長く使えるのではないか。
- ・第一小は地盤がよいと聞いた。
- ・客観的に見れば、いろいろな意味で第一小の方がよさそうである。

★推進委員会としてのまとめ⇒「**小学校は第一小学校での統合が適当である**」

### [中学校2校を統合する施設について]

- ・教室数は、第一中、第二中ともに、現在の施設で足りる。
- ・第二地区コミュニティ推進委員会として、第二中での統合案を支持する。
- ・第二中の西校舎は46年経っている。(第二中で統合することになった場合は、改修や建て替えなど何らかの対策を取る。雨漏りについては適宜修繕等で対応している。)
- ・第二中で統合する場合、千本小の体育館も使えるよう柔軟な対応をお願いしたい。
- ・先に小学校3校を第一小で統合し、並行して、第一小敷地内に中学校分の校舎を増築し、数年遅れて中学校2校を加え、小中一貫校化することはできないか。
- ・もともとあまり広くはない第一小のグラウンドに校舎を増築して小中一貫校化するとすると、小中両方のグラウンドとしては、狭いのではないか。
- ・第一中や第二中の施設を見たことがない。見学をする機会を設けられないか。

★推進委員会としての確認⇒「**中学校は課題と長所を整理し、協議を継続する**」

## 事務局から

※推進委員を対象に、施設見学会を実施しました。(第一中：11/4、第二中：11/10)

※小中一貫校化案については、増築の場合で令和7年度以降、建替の場合で令和8年度以降となることや、小中9学年が学習や生活をする施設を確保すると適正な広さのグラウンドが確保できないことなどから、選択肢から除外する方向で検討しています。

資料

【資料1】 第一・第二中学校区における適正化案（8/26 第1回推進委員会）

- 案③…第一小学校で小学校3校を、第一中学校で中学校2校を統合する案（最短統合年度：令和5年度）
- 案④…千本小学校で小学校3校を、第二中学校で中学校2校を統合する案（最短統合年度：令和5年度）
- 案⑤…第一小学校で小学校3校を、第二中学校で中学校2校を統合する案（最短統合年度：令和5年度）
- 案⑥…千本小学校で小学校3校を、第一中学校で中学校2校を統合する案（最短統合年度：令和5年度）
- 案⑦…第一小学校で小中学校5校を小中一貫校化する案（最短統合年度：令和7年度）
- 案⑧…第一中学校で小中学校5校を小中一貫校化する案（最短統合年度：令和7年度）

【資料2】 第一・第二中学校区の適正化に係る施設の比較

学校名	災害のリスク			校舎等の状況		教室数の過不足	面積
	津波	洪水		校舎等	経過年数		
		狩野川	新中川				
第一小	◎ 海拔 7.3m	◎	○ 北西の 隣地が 浸水	南校舎	35年	なし	体育館アリーナ 709㎡ 運動場 11,815㎡
				北校舎	66年*		
				中校舎	68年*		
				体育館	23年		
千本小	◎ 海拔 5.9m	△ 敷地北 側一部 が浸水	△ 敷地北 側一部 が浸水	北校舎	37年	-5	体育館アリーナ 558㎡ 運動場 12,346㎡ (第二中の運動場を含む)
				南校舎	36年		
				体育館	33年		
第一中	◎ 海拔 7.0m	◎	▲ 全敷地 が浸水	校舎	23年	なし	体育館アリーナ 845㎡ 運動場 8,581㎡
				体育館	15年		
第二中	◎ 海拔 5.9m	△ 敷地北 側一部 が浸水	△ 敷地北 側一部 が浸水	西校舎	47年	なし	体育館アリーナ 963㎡ 運動場 12,346㎡ (千本小の運動場を含む)
				中校舎	19年		
				体育館	21年		

【災害のリスク】 ◎リスクなし ○低リスク △リスクあり ▲高リスク

【校舎等の状況】 \*大規模改修後9年

【※参考 沼津市ホームページ→市民のみなさんへ→防災・減災対策】

地震・津波ハザードマップ

<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/anshin/bousai/tunamihazard/4ji/41.pdf>

狩野川・黄瀬川洪水ハザードマップ

[https://www.city.numazu.shizuoka.jp/shisei/office/ichiran/kensetsu/hazard/doc/kanogawa\\_map.pdf](https://www.city.numazu.shizuoka.jp/shisei/office/ichiran/kensetsu/hazard/doc/kanogawa_map.pdf)

新中川洪水ハザードマップ

[https://www.city.numazu.shizuoka.jp/shisei/office/ichiran/kensetsu/hazard/doc/shinnakagawa\\_map.pdf](https://www.city.numazu.shizuoka.jp/shisei/office/ichiran/kensetsu/hazard/doc/shinnakagawa_map.pdf)



地震・津波



狩野川・黄瀬川



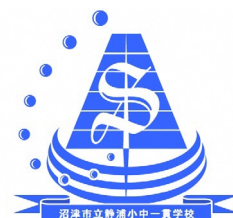
新中川

## 参考：市内の適正化の取組について（他地区の取組）

教育委員会では、平成29年5月に策定した「沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針」（以下、適正化基本方針）に沿って、学校規模・学校配置の適正化を進めています。現在は、戸田地区と長井崎中学校区、そして、第一・第二中学校区で取組を進めているところです。平成29年に適正化基本方針が策定される以前にも、静浦地区で学校の統廃合を行っています。各地区でどのような取組を進めてきたのか、簡単に御紹介します。（第2回推進委員会において、説明をしました。）

### 静浦地区

静浦地区では、平成22年4月に静浦東小と静浦西小を静浦小に統合し、同年9月に山の中腹にあった静浦中を静浦西小があった場所に移転させました。そして、平成26年4月、静浦小と静浦中を一貫校化し、新築では県内公立校で初となる施設一体型の「静浦小中一貫学校」を開校しました。今年、開校から7年目となります。静浦では、2段階の統廃合となり、協議開始から開校までに、約10年を要しています。



### 戸田地区

戸田地区では、平成28年度に地区推進委員会を設置し、一貫校化に伴う諸課題について協議してきました。推進委員会では、校名（呼称）、校章、校歌、制服などの検討事項を協議してきました。校名（呼称）については、「戸田小中一貫学校」とする準備を進めています。校章と校歌は、開校に合わせて新しくなります。また、戸田小の校舎を長寿命化改修することにより小中一貫校化し、令和3年4月に開校する予定です。



### 長井崎中学校区

長井崎中学校区では、平成29年度に地区推進委員会を設置し、一貫校化に伴う諸課題について協議してきました。推進委員会では、校名（呼称）、校章、校歌、制服、通学などの検討事項を協議してきました。校名（呼称）については、「長井崎小中一貫学校」とする準備を進めています。校章は、開校に合わせて新しくなります。また、長井崎中の校舎の一部改修することにより小中一貫校化し、令和3年4月に開校する予定です。

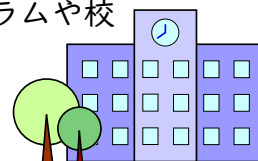


## 今後の進め方について

11月30日（月）に保護者説明会を開催し、12月初旬に保護者意識調査を実施する予定です。推進委員会での協議や保護者の皆様の御意見、市役所内における様々な角度からの検討を踏まえ、全体最適となるよう、早期に適正化の方針を決定したいと考えています。

第一・第二中学校区の適正化については、今後、隣接校選択制度や通学、特別支援学級、ことばの教室、放課後児童クラブ、子育て支援センター、跡施設の利活用、防災対策、地区コミュニティ、施設の開放など、様々な検討を進めてまいります。カリキュラムや校名、校歌、校章、制服等の検討事項は、方針決定後に協議を行います。

お気づきの点や御意見等がありましたら、教育企画課まで御連絡ください。



沼津市教育委員会の「学校規模・学校配置の適正化」に関する取組はこちら⇒

